
魔法先生ネギま！ 例のやつがやってきた？

ハテナーナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギま！ 例のやつがやつてきた？

【NZコード】

NZ8312X

【作者名】

ハテナーナ

【あらすじ】

麻帆良学園にとある人物がやつてきた

そいつは裏では有名な最強防御魔術師

ついあべすキャラ設定ノー（前書き）

映画化記念（一ヶ月以上経過しているが）なので投稿

といあえずキャラ設定その1

八樹 はちじゅ 26歳 誕生日 11月3日

本編の主人公 無詠唱で魔法を使えるが本職はあくまで剣士
近衛木乃香と桜咲刹那とは知り合い関係 何故そうなったかは後々
魔法学校に通っていたが五ヶ月で中退
その後独学で魔法を覚える
だが中学生になつてから6年近く魔法を封印したためかなり弱くな
つた

出身は岡山県 瀬流彦先生とは結構仲がいい

ちなみに魔法は777個覚えているが600個はまったく役に立た
ない魔法である（たとえば白紙を一瞬で黒くする魔法とか）

ハテル・テル 誕生日 10月29日

こんな名前だがこれでも日本人そして八樹の幼馴染

独学で魔法を覚えたある意味すごいやつ

かなり強力な炎魔術師でエヴァンジエルンに匹敵する強さを持つ

魔法使い連合会議？（前書き）

PC不調のため短め

魔法使い連合会議？

世界樹前 六時ごろ

瀬流彦 SIDE

え～っと今日から配属される魔法使いが一人きたみたいだから
だけどこんな時期に珍しいね もうすぐ期末テストが始まるのに
まあ僕はたいした魔法はつかえないけど 配属される人はかなりす
ごい魔法使いらしい

ちなみにここには今は人払いの札を貼っているから魔法関係者以外
はだれもいない

「え～ さてこの学園にやつてきた魔法使いを紹介するかの」

学園長先生がやってきた つれてこられた人は僕の知り合いのよう
だね

「では自己紹介を」

「あ～ あ～ 僕の名は八樹だ とりあえず宜しくお願ひします」

彼の名前を聞いてみんなが騒ぎ出す そりやあ彼は有名人だからね

特に桜咲さんが驚いていた まあ彼女はハ樹とは知り合いだつたら
しいからね

「では今日はこれにて解散じゃ」

学園長の言葉によつて解散 人払いの札もなくなつたよつて生徒たちが
わらわらと集まってきた

学園長室

ハ樹SIDE

ここは学園長室 何故呼ばれたかって? バイト生活とか色々と楽
しんでいるときに突然

「Jの学園で教師をやつてくれんかの?」つて携帯に電話がかかつ
てくれるんだぜ?

おまえはどこで俺の携帯の番号を知ったんだよ

ちなみに学園長室には俺と学園長そして高畠先生の三人がいる

高畠先生は魔法界ではかなりなやつだったらしい

「してハ樹君には2・Aの副担任をやってもらひますわ」

「まあかまいませんよ」

「あと何か得意科目とかはあるかの?」

「国語以外なら基本得意ですが 教えるとなると数学以外は無理ですね」

「国語以外は毎回満点なんだよな 国語は半分くらいだが

「なら数学の教師になつてもうらつかの」

「了解」

こうして俺は数学担当の2・A副担任となつた 高畠先生は空氣だつたけど

初授業？

八樹SIDE

とやまとよで授業担当

「こよいよですね」

「まあそうですね 変わったクラスだと瀬流彦先生から聞きました
し」

ちなみに中等部女子2・Aのやつらに知り合いは少しいるんだよな
ちなみに一緒にきてくれたのは高畠先生 Thank you だな

いよいよ教室 ドアには黒板消しが

「ハハハこんな古典的な罫があるとはな.....」

隙間から覗いてみると明らかに黒板消しが頭に落ちてそれで動転してロープでこけさせてバケツに頭が入つて教卓までくぬぐなつてぶつかり生徒に笑われるか.....

ひどいクラスだなあい！

「まあ、いつのクラスだからねウチは」

とつあえず黒板消しは取つておいて

ガラガラガラ

龍宮真名SHIDE

噂の魔法使いの教師が来たか……

黒板消しの罫を回避しロープをジャンプでかわしそのまま教壇につくとは

なかなかやるようだな

「あ～ ここの件については置いといて自己紹介をしておこう
名は八樹 一応数学教師となつた このクラスの副担任であつて教
師免許はない 以上」

そんなことを言つていいのか……？

「質問はSHR内までなら聞いてやる 今のうちに聞いておくこと
だな」

そういうた瞬間クラスは騒がしくなつた

先生はどこからやつてきたかとか

彼女はいるのかとか

好きな食べ物とか嫌いな食べ物とかなどなど

ま、私は興味はないがな

八樹SIDE

チャイムが鳴り とりあえず俺は教室を出る 一時間目は高畠先生

が授業だからな

俺は2 - F だけど 2 - A は五時間目だな 楽だな

明日は全時間だけどな

ま、がんばるか

授業はこの一回だけ

一学期期末テスト（前書き）

次回くらーこにネギ登場予定

そして次回くらいから真面目に書いつ

一学期期末テスト

八樹SIDE

時は飛んで 期末テスト一週間前

予想通りだがみんなやる気なし

ついさつき小テストを行い採点が終わった

結果は一位は超鈴音の100点

二位は葉加瀬聰美の99点

三位は雪広あやかの98点

四位は宮崎のどかの96点

五位は朝倉和美の95点

六位に近衛木乃香の92点

ここまでが九十点台

ちなみにワースト6は

桜咲刹那とNazie Rainydayの42点

ギリギリ欠点じゃないレベルだな

のこりはバカレンジャーと呼ばれている5人衆

一番悪いのは神楽坂明日菜だが

まあこいつは高畠先生の補習田的でわざと悪い点数を取つてないと
か……

それはいいとしてのままだと最下位確定

ま、最下位でも怒りやれたりはしないこと思ひついで楽しかったり

「今更だが、せめて最下位脱出のため今からやる小テストで60点
以下のやつは放課後鬼の補習を行つ
文句は聞かんぞー！」

ええー！？と上がる声 わつわつやつにかぎつて勉強ができないの
が普通だが

成績優秀の朝倉とか一応合格レベルの鳴滝姉妹もええー！？といつ
ていた

お前らレベルなら合格できると思つから大丈夫だ

「なら配るぞ 結果は高畠先生配つてくれる」

そして配る

ちなみにみんなのテスト中に俺は何故か社会のテストを作成
担当の先生が俺と入れ替わりで辞めやがったから変わりに俺が作ら
れるハメに

そして放課後

意外と合格したようで残りはバカレンジャーの5人衆だけだった

「えっと、これより補習を行つ、二十点満点のテストで八割以上の点数で合格だ、できるまで付き合つからな」

「え～と先生！」

「なんだ？ 佐々木よ？」

「八割つて何点以上のことですか？」

割合くらいわかれよ 小学生レベルだぞ！？

とつあえず言へることは、ここいらを底上げするのは大変だということだ

その後期末テストが行われてからついでにワースト3位に滑り込んだ

一学期期末テスト（後書き）

次回からは真面目に……かけると思つ

ネギ登場

八樹SIDE

2 - A 天井裏

三学期開始早々天井裏にいる2 - Aの副担任
何で天井裏にいるかって?

ビビッセ 2 - Aでは腰が張られるんだし

新米教師にかかるつてもらおうといふ考えだ

たしかサウザンドマスターの息子だつたはず

ちなみに冬休みの間は生徒と仲良くなる努力をした

一部以外は仲良く話せるレベルに

あとは遠当ての練習だな がんばつて俺の知り合いレベルまで練習
した

覗くために天井に穴を開けた 後で直すけど

「失礼しま……」

来たようだ じづな先生の同伴で

そして黒板消しの罫がやつてくる

ボフッ 一瞬止めて結局かぶつてしまつたようだ

「あらあら」

「ゲホゲホ いやーあはは なるほどゲホ ひつかかつちやつたな
あコホ」

そして第一の罫 「へぶつ！？」 ロープでこけて「あぼ！」 水入り
バケツが落ちて「うわああああああ」 矢が飛んできて

「ギャフン」 教卓に激突と

『アハハハ！――』

クラスの大半が笑つていた

「えつ？」

「あれ？」

ちなみに新任教師は数えで10歳だったはず

「えーっ！ 子供！？」

「君、大丈夫！？」

「『メンー』てつくり新任教師だと思つて！」

「いつが新任教師なんだけどな

「いいえ その子があなたたちの新しい担任よ ハ樹先生は副担任のままだけど

とりあえず自己紹介をしてね ネギ君」

「ハ、ハイ」

たしかこいつはネギ・スプリングフィールドで得意魔法は風だったはずだ

「え、えと あの……ボク……ボク……

今日からこの学校でまほ……英語を教えることになりました
ネギ・スプリングフィールドです

3学期の間だけですけどよろしくお願ひします」

魔法と言いかけたことに関してはスルーする

「キヤアアアア！」

「かわいい！」

一応歓迎されてるようだ

ネギ歓迎会（前書き）

そろそろ魔法を出さないとな

ネギ歓迎会

八樹SIDE

とつあえずネギ先生の授業はよだよだになつた

そしてネギ先生の歓迎会用のクラッカーを買いに行かされた

生徒にパシリされる教師とか聞いたことないぞ

一応買つたからいいけどさ

「ほりよ 買つてただぞ」

「サンキュー」

そして一部の生徒にタメ口で話されるようになつた

ちなみに今のは明石裕奈だけど

ちなみにネギ先生はわつと見たし もつ来るだらつ

「あとひよつとで来ると思つから準備してよー。」

『 』『 』『 』『 』『 』

数分後

「早速実行よ 荷物とつてくれるからちよつとそれにして…

何を実行するんだよ?

『 ようじやー。』

『 ネギ先生!』

ようやく主人公であるネギ先生登場

「あ……そーだ 今日あなたの歓迎会するんだつけ……忘れてた
！」

「えー！…」

えー！…はいっちだよ 忘れんなよ大事なことなのさ

歓迎会は順調に進んだ

肝心のネギ先生は高畠先生に読心術を使ってたようだが あの先生
に読心術はきかないと思う

次の日の夜

rrrrrrr

「はい こちらは八樹」

『八樹が、ようやく倒したぞ お前の家の近くにいたドラゴン』

「おお やつとか サンキュー ハテル」

ハテルと俺のもう一人の幼馴染のJ・Mに上級種の龍を倒してもらつた

というわけでこの一人を魔法世界に送り込んだ

せなみは、これは量上級の回復魔法を覚えていたからある。他の世界では最強の治療師と呼ばれている

強さAのネギ先生レベルだけどね あいつ攻撃技ほとんどないし

ちなみに俺はSBでハテルはSC

『とりあえずしばらくしたら旧世界に戻るぞ』

「ああ、こつぐらこに戻れるか？」

『お前らの学校で修学旅行が始まるくらいの時間かな?』

「遅いな!? おい!」

惚れ薬編？

放課後

八樹SIDE

そこらへんを歩いていたらネギ先生発見

声をかけようと思つたら図書館探検部の三人が先に声をかけた

ちなみに富崎のどかはたしか恥ずかしがりやだつたが木乃香嬢によつて俺は話せるようになつた

ちなみにかなり離れているから会話は聞こえないので近づく

「ふう　どーしょ　　ん？」

何かが出てきたようだ　あればたしか魔法の素丸薬七色セット大人用

「これさえあればホレ薬みたいなのが作れるかも…！」

惚れ薬は犯罪なんだけどな　どうでもいいしほつておこう

数分後 学園の警備をする」と

そして2-Aの教室を覗くと神楽坂によつてネギ先生がホレ薬を飲んじやつた

「ネギ君つてよく見るとなんかスゴクかわえーなー」

びやうら木乃香嬢が一番の被害者となつた

「うふうふと句をやつしるんだとかなんやべー。」

いいんぢょつが第一被害者になつたから、まあここにつけもともと變してゐそつだから、いけど

「先生びやうら公を・・・・」

びやうらからか花束を出した

ちなみに何故か神楽坂には効かない

ここのアレがあるのか？

「はーぬぎぬきまじょつね」

「ああ やめつ やめてくださいー。」

これがいわゆる自業自得といつやうだな

そしてカオスになつてきやうだから退却 とりあえず図書館あたりに

図書館前の扉

鍵がかかっているね

そしてネギ先生に先を越されてしまった

「 もやあっ 」

転落？

「 いてて だ…… 大丈夫？ 富崎さん 」

「 「 あ…… 」 」

「 よお神楽坂よ 中が大変なことになつてゐるよ 」

「 ええ！？ どんな」と云ふ？

「もうちょっとでキスするだらつたな 惣れ薬の効果が切れるまで
ま、あの量ならあと少しできれると想つよ」

「へえ 結構詳しいのね」

「そりゃあ 魔法使いだからさ」

「えええーーー！」

「いや驚くことじやないだろ？ ネギ先生だって魔法使いだし そ
れよりはやく助けてやれ」

遠当て練習（前書き）

オリジナル物語 そしてオリジナル技を使用

遠当て練習

冬休み中

八樹 SIDE E

俺はとあるやつが言わなければいけないことがある

「ゴハアー！？」

開始早々殴られた 遠当てで

「こんなことでは俺の知りませんやつだと

豪徳寺か中村のどっちかだ

「おー！ だれだ今はー 豪徳寺か中村だつて事はもうわかつて
るべ

必殺 影移動

「ほー 到着」

「おおい！？ ビーから来たんだよー。」

「ところわけで、どいちがやった？」

「豪徳寺だつたはずだが」

「まつまつさうかそうか なじ覚悟しこな 烈空弾！」

「俺の作った遠当ての4 命中率が高めだが大して強くない ちな
みに8つ作った

「ぐはあー。」

どうでもここが何故ここにつるんでこるかと云つて

遠当てその8を製作中に中村の遠当てを食いつてしまい2秒意識が
飛んだ

そして遠当て仲間とこいついで仲良くなつた

「つ！ 痛えな 漢魂！」

「負けるかよ！ 砲劉霸！」

「遠当てその一 威力重視のため 意外とあたらないが今回は当たった

「へえ やるねえ 昨日は命中率が格段に低かつたのにこな

「修行してんだよ ちやんと」

「いつのー時間が向いついでー田になる別荘で

「どうか明日ちょっと旅立つからそれを伝えたいだけだ よって
しまじくは練習に参加しない」

「おー マジかよー」

八樹「第一回オリジナル技解説を始めるぞ！」

豪徳寺「おおーーー！」

三下「一九」

八樹「ちなみにメンバーは俺プラスこの二人とゲスト一人だが今回
は第一回だしだあの女子たちとほとんど接触してないからゲスト
はなしだ」

以下「とつあえず遠当てはスルーして影移動の解説をしそう」

八樹「これはまあ瞬動の下位技だな」

豪徳寺「影のないところからあるところにしか移動できないし
オマケに夜はほとんどつかえないからな」

八樹「とりあえず今回解説終了 中村や大豪院は後々に出るとと思
うよ」

八樹の魔法、武術設定

八樹「第一回オリジナル技解説を始めるぞ！」

豪徳寺「しかも拡張版だつてよー！」

山下「早くない！？」

八樹「だつてまだ魔法でてないんだぜ？」

山下「たしかにそうだけど……」

豪徳寺「じゃあ まずは魔法の紹介だ」

魔力 大体木乃香より少し少ないくらい

主に使う魔法は防御系

そして呪文詠唱時によく噛んでしまつので無詠唱主義

始動キーは リモート・フォート・ローレック

適当に作ったので忘れかけている

攻撃魔法はほとんど使えない 魔法の射手も15本が限界

本人曰く弱点は雷系魔法

得意魔法は炎

銃も龍宮真名ほどじやないがかなりの腕前

防御系魔法

真空壁

炎系魔法しか防げないどうでもいい魔法

亜空の筒

相手の攻撃をそのまま返す強い技だが何故か氷系魔法には使えない
あと魔法にしか使えない

絶対防御

ほとんどの攻撃を防げる最強?な技 しかしこの技を展開中はほか

の魔法を使えず
自分も動けない

などなど

豪徳寺「魔法の紹介少ないな！」

八樹「こんくらいしか思いつかなかつたんだ」

山下「じゃあ次は武術系だな」

遠当て全8種類

説明省略

爆碎砲

右手に気を溜めて一気に放つ技

運がよければ学校ひとつくらいは焼け野原にできる

真硫連撃

爆碎砲の左手バージョン

こっちのほうが若干強い

スロー速拳

別名 遅痛拳

とてもない速さで相手を殴る

この技によるダメージは2秒後に発生する

「これは居合の拳を参考にして作った

などなど

豪徳寺「また短つ！」

ハ樹「これくらいしか思いつかないんだってさ」

山下「ひどい作者だな どうかゲストはどうしたんだ？」

ハ樹「まだほとんどのやつと接触していないからまだなしだ」

豪徳寺「期末テストでかなり空いてしまったからな ちなみに昨日
終わったそうだ」

ハ樹「凡ミスばかりしたって嘆いたけどね まあおまけとしてハテ
ルのキャラ設定と・Mの紹介でもしよう まずはハテルのほうだ」

魔法系

炎系まほうしか使えない

魔法の射手は50本を無詠唱でいける（当然炎限定）

始動キーは ファイヤー・ロック・ホート・マステギー

ハ樹と仮契約をしている

称号は無限の炎の戦士

技

地獄火

ヘルファイヤー

一応本人の中で最強技

紫色の炎を手に出して投げつける 最大は直径100mだが普通は
そんなに大きくない

炎の壁

風系魔法を使われると一瞬で消えてしまうがそれ以外は基本防げる

J・M

これでも魔法世界では超有名な治療師

基本どんな怪我でも治せるが打撲だけは直せない

あと当然ながら死人を蘇生するなんてできるわけないよ

雷の下位魔法も使えるがあまり強くない

ハ樹と仮契約をしている

称号は回復のスーパースター

始動キー ヒール・ヒーラック・ホーリック

技は省略

ハ樹「以上 紹介終了！ 次は多分吸血鬼編だな」

山下「ずいぶんと飛ぶんだね」

ハ樹「どうせ学年末編はネギのやつが勝手に解決させりゃうんだし
木乃香編は後に番外編としてやることにしたし」

豪徳寺「んじゃな」

桜通りの吸血鬼（前書き）

八樹「うわ やつべ！」

豪徳寺「どうしたんだ？」

八樹「魔法より剣術の方が得意なのに紹介し忘れたという」

山下「じゃあ紹介しないと」

主に使用する武器

柳葉刀 クレイモア 長柄刀 メイルブレーカー フランベルジエ

一週間だけ神鳴流に入っていた

斬空閃

空間を切る危険すぎる技

真空刃

適当に作ったかまいたちを相手に投げつける

トルネードソード

両手に剣を持って回転し、竜巻を起こす
若干風の魔法を使用

などなど

桜通りの吸血鬼

八樹SIDE

新学期の夜

いよいよ3年 ネギの野郎が正式な担任となり俺は副担任から降ろされた

まあ数学は教えるけどね

それはどうでもいいけど問題は吸血鬼の事件なんだよな

記念すべき最初の犠牲者はまき絵か

犯人は間違いない真祖のエヴァンジエリン・A・K・マグダウェルだろう

俺はあえて微妙なアタナシアと呼んでいるが とある訳があつてね

そして桜通りに来ると結構力オスなことになつていた

「何があつたんだよ？」

ほぼ裸ののどかと木乃香嬢と明日菜（名前をここにいから名前で呼ぶことにした）

おそらく武装解除されたな ネギのやつはレジストはしたようだが

「ええっとそれが……」

とつあえずのどかを明日菜、木乃香嬢が部屋に運んでくれた

俺は一応ネギの野郎の救出へ行くことにする

とある建物の上

「おまえの親父・・・・・すなわち・・・・・『サウザンデー・マスター』のことか ふふ・・・・」

ああ、ナギさんのことか わりげなく俺の先祖の七樹が紅き翼の一

員だつたりする

もう死んだけど 紹介はのちのちにする

「あと 八樹！ 隠れてないで出て来い！」

おおつと 僕の存在はばれてるよつだつた

「へいへい でりやあいいんでしょ」

「ええ！？ 八樹先生って「魔法使いだから安心しろ サウザンド
マスターの息子のネギ・スプリングフィールド あと先生はつけず
に気軽に八樹とでも呼んでくれ」どうして父さんのことを…？」

「それについては後に話す それよりそここの吸血鬼をじつにかしな
いといけないんじやないか？」

「え……えつと・・・とにかく！ 魔力もなぐマントも触媒もな
いあなたに勝ち田はないですよ…
素直に……」

いや、こいつには茶々丸がいたから今のお前には無理だつ

「・・・・・」それで勝つたつもりなのか？

上の屋根から茶々丸登場

「さあ お前の得意な呪文を唱えてみるがいい

魔法使いの弱点 呪文詠唱中に攻撃を食らひつと魔法を発動できない

「風の精霊11人縛鎖となりて敵を捕まえろ」

「ふ・・」

茶々丸が動く

「サギ・・あたつ」

茶々丸によるデコピングで魔法が発動できず

「あたた？ えつあつれ！？ キ、君はウチのクラスの・・・・・」

「紹介しよう 私のパートナー 3-A出席番号10番 魔法使い
の従者 絡繩 茶々丸だ」

意外と最近にできたロボットだそうだ その前はチャチャゼロだったが あいつ今は動けないはずだ

「え・・なつ・・！？ ええ～！？ 茶々丸さんがあなたのパートナー！？」

「そうだ パートナーのいないお前では私には勝てんぞ」

俺はいるけどね

「な・・・・・パ、パートナーくらいなくたって 風の精霊11人・

・」

ネギが呪文詠唱をした瞬間茶々丸が動く

そして普通に頬つぺたをつねられている

「見事なやられっぷりだなネギよ」

「元々『魔法使いの従者』は戦いのための道具だ
我々魔法使いは呪文詠唱中 完全に無防備となり攻撃を受ければ呪
文は完成できない」

「もつとも俺は無詠唱主義だし 従者がいなくとも十分やれるから
いいけど
本来はそれを盾になり剣となつて守護するのが従者の本来の使命
だそうだ」

「つまり・・・パートナーのいないお前は我々3人には勝てない
といつことせ」

「おい！ 勝手に俺を入れないでくれ あくまで俺はお前の敵だぞ」

「フン [冗談だ]

つっても俺は茶々丸に勝てたことがないので抵抗はできんのだが

「申し訳ありません ネギ先生」

茶々丸がネギの首をつかむ ちなみにアナタシアはナギさんに登校
地獄のろいをかけられて

15年も中学生をやつているそつだ かわいそつこ まあ俺もがん
ばれば解けると思つけど

セリフの言っている内にアナタシアがネギの血を吸い始めた。さてどうする？

「いいのですか？ハ樹先生？」

「なんだ？茶々丸」

「ネギ先生を助けなくとも」

「いや大丈夫だらうほらな」

そうじつて後ろを指差す

「こりー！この変質者どもーー。ウチの居候に何すんのよーー！」

明日菜登場　たしかアナタシアは魔法障壁を常に展開してなかつた
つけ？

やつぱり明日菜はアレをもつてるのか？

「か、神楽坂　明日菜！？」

「あつあれー？」

結構驚いてるようだ

「あんた達はウチのクラスの・・・ちょっと違うことをいふよねー？」

そりやあこの一人が犯人だからね

「ま・・まさかあんた達が今回の事件の犯人なの！？
しかも一人がかりで子供をイジめるような真似をして・・・
答えによつてはタダじゃすまないわよ！」

「ぐつ・・・・よくも私の顔を足蹴にしてくれたな神楽坂明日菜・・・
・・お 覚えとけよ」

どつかの悪役が言つよつたセリフを言つてアナタシアと茶々丸は帰
つていつた

八樹の父の過去（前書き）

またまた少し飛んでエヴァが風邪と花粉症になつたといふらへんからスタート ミスによつて途切れたから 20時より再更新する

八樹の父の過去

八樹SIDE

エヴァンジェリン、茶々丸家

なんでこんなところにいるかつて？ そりやあとあるバカが風邪を引いたからだ

ちなみに何故か逮捕したはずのエロガモがやつてきてネギのやつも完全復活した

何があつたかは知らんが

「八樹先生そこ」の薬をとつてください

「ねむつと ほらよ」

……カラソコロン

ん？ 誰か来たのか？

「なんか誰か来たし出でてくるわ」

「誰かいませんか～？」

来訪者はネギのようだ

「よお ちなみにエヴァンジエリンは風邪 + 花粉症だからな だろ
？ 茶々丸」

「ええ」

「ええ！？ 不老かつ不死の彼女が風邪なんてひくわけが……」

いや、アナタシアは今は普通の10歳と同じだし

「そのとおりだ」

普通に風邪引いてるよな？ ハアハア言つてるし

「よく一人できたな 魔力が十分なくとも 貴様」ときひよっこを
ぐびり殺すコトくらいわけはないのだぞ？」

かなり自信はあるようだが魔力も封じられてるし風邪だし無理だと
思う

「H エヴァンジエリンさん！？」

ネギのやつがアナタシアに何か渡す ん？ 果たし状……？

「なんだそれは？」

アナタシアのやつには分からなかつたよつだ

「はつ 累たし状ですつー 様ともう一度勝負してくだなこー。」

いやいや、はつきり言つて今のお前がパートナーなしで勝てる確率
は1・3%だぞ

「あ あとりやんとサボらずに学校に来てくだなー。このままだ
と卒業できませんよつー。」

「だから呪いのせいで卒業できないんだよ まあいいじで決着を
つけるか？ 私は一向に構わないが？」

「……いいですよ そのかわり僕が勝つたらちゃんと授業に出でへ
ださいね！！」

そうこうしてすぐにアナタシアは階段から落ちた 無理をやるなよ

八樹の父の過去（後書き）

諸事情でここまで

八樹の父の過去はまた今度といつゝひで（前書き）

だれか感想を書いてください なんか〇件が悲しいからください
そしてまた飛んで決戦エヴァンジェリン 三巻も今回で終わり
とこりが早く修学旅行編に行きたい

どうでもいいけど最近Minecrafterの動画を見てやりたいけど カード持っていないから買えないということでできない

八樹の父の過去はまた今度といつゝこと

八樹SIDE

とある橋

夜8時あたりに学園全体は停電となつた

アナタシアが動くのは今だろ？

学園結界の封印が解ければかなり強くなる

と思ひ

たしかネギのやつは捕縛結界を仕掛けたようだが 前に俺がこいつ
らと戦つたときに

同じ作戦を使って結界解除プログラムとか発動されて……なこと
になつた

「」おる大地……」

おわつと も「」今まで来たのか

とりあえず空中から戦いを見させてもらおう

「あぐつ

明らかにネギの方が劣勢だ

「ふ・・」の橋は学園都市の端だ 私はのろいにゆつて外には出ら
れんピンチになれば学園外へにげねばいい か

そういうやうには学園都市の端だな

「・・意外にセレニ作戦じゃないか え? 先生?」

「りやあ 助けたほうがいいかな?

ええつと始動キーは つとやらべ忘れた!

「なー? こ これは・・捕縛結界! ?」

そういうや捕縛結界仕掛けていたんだな 無駄だけど

「や・・やつた つ ハくへひつかかりましたねエヴァン
ジエリンさん!」

おまえにしては立派な作戦だと思つがこれじゃアナタシアには勝て
んぞ

「もう動きませんよエヴァンジエリンさん これで僕の勝ちです
まあ おとなしく觀念して 悪いことも もうやめてくださいねー

「…………やるなあぼつや 感心したよ ふ・・・・・アハハハハ」

アナタシアが笑い出す

「な 何がおかしいんですか 『』存知のよう^{ヒトシ}にこの結界にハマれば
簡単には抜け出せませんよ！」

「そうだな 本来なら^{ヒトシ}で私の負けだろつ 茶々丸」

「ハイマスター」

おそらく結界解除プログラムを作動するのだろう 『』りやあ助けに行かないと

だが始動キー忘れたし とりあえず体術と氣でなんとかするか

「ハハ 待ちなさい……」

どうやらパートナーになつたらしい Hロガモ（オゴジヨ）から聞いた話によるとなね

「フン來たか ぼうやのパートナー 神楽坂明日菜」

「カモ！」

「合点 姐さん！ オゴジヨフラッシュ！…」

とりあえず茶々丸を切り抜ける明日菜

俺はその間に下におりる

「フン たかが人間が私に触れる」とすらできんぞ」

だがしかし 明日菜の蹴りはヒットした

やつぱりアレを持っているとみて間違いないだろう

とある柱の影

「どうする？ 一応気配を消す魔法を使っているが早くしないと氣づかれるぜ？」

とりあえず一人と一匹？を柱の影に連れてきた

「アスナさんごめんなさい僕・・・ 僕 アスナさんに迷惑かけないようにつて一人でがんばったのに・・・・・ダメでした」

「つたく 子供なんだしもう少し頼つてもいいと思つたが 特に俺とかさ お前と同じ魔法先生なんだしさ それに明日菜だつて自分からきたんだし 迷惑とは思つてないだろ な？」

一応明日菜に同意を求める

「そうよ 私が来たくて来たんだだから迷惑でも何でもないの！ ホラ 協力するからチャツチャと問題児をどうにかするわよー！」

とりあえず協力してくれるようだ

「で・・・ビツするの？ネギ」

「アスナさん・・・」

とりあえず仮契約するんだうし魔方陣でも書いておこうか
たしかにいつかいつ書いていつかいつか

「お願ひします！ アスナさん 僕 あの人勝たなきやー！」

「モー！なくつちや！ 兄貴 では姉さん！..」

「一応見ないでおくから勝手にやつてくれ」

これで一応契約更新したらしがこんなに光るんじゃああの二人には気づかれるよ

「むつ・・そこかー！」

そして二人は飛んでいた

「どうしたぼーや？ お姉ちゃんとハ樹が助けに来てくれてホツと

一息か?」

「いや、俺はどちらかといつと傍観者だし 最悪の場合は助けるが」

いよいよ戦いが始まる

「契約執行 90秒間 ネギの従者『神楽坂 明日菜』……」

契約執行 ま、普通はそれを使つよな

ネギとアナタシアは普通に魔法合戦だ

そして茶々丸▽明日菜はといふと

想像以上に明日菜が強くてほぼ互角の戦いを繰り広げている

「さて おまえはネギとエヴァンジエリンのどっちが勝つと思つかモよ?」

「ううう 僕っちはネギの兄貴にかけるぜ そういうハ樹の兄貴はどうぢでい?」

「俺もネギのほうと言いたいが賭けが成立しないからエヴァンジエリンに賭けるわ」

「闇の吹雪!」

「雷の暴風!」

気が付けばお互いの使える最強のが使われていた

俺はアナタシアが勝つと思っていたが なんとわずかの差でネギの方が僅差で勝つていたようだ

雷の暴風がもうヒットする

「やりおったな 小僧・・・・ フフッ 期待通りだよ さすがはやつの息子だ・・・・」

アナタシアはまだ戦えるようだ.....が

「おい 茶々丸 たしか停電は予定より7分27秒早くなつたはずだが.....」

「...いけないマスター戻つて!」

バシャバシャバシャ

停電が復旧しやがった

このままだとアナタシアおぼれるべき

助けに行かないと

「ど どひしたのー?」

「停電の復旧でエヴァンジエリンの封印が復活した 魔力がなければヤツは十歳のこどもと同じだ おまけに泳げないし」

茶々丸と俺が助けにいこうとするが先にネギがたすけに行つたようだ

そして杖でとんでなんとか助けれたようだ 一応よかつたよかつた

「へへへ わあこれでホントに僕の勝ちですよ もうこれで悪い」とはやめて授業にもしつかりでてもらいますよー。」

「…………わかったよ 確かに今日はひとつ借りだな」

「よーし 名簿のところに僕が勝ったと書いておこう

どこから出したんだその名簿は それに洗脳した運動部四人に脱がされたはずだが 生き残っていたのか

まあ とりあえずは一件落着だな

修学旅行初日　その一（前書き）

久しぶりに投稿なので色々ぶつ飛んでます

八樹SIDE

まあ「J」でやるのは「J」たちに帰つてきたとか言つていたハテルやー。
Mに会うことだな

基本はネギ先生の護衛だが流石にこんな大勢いる中で敵が襲つてくることはないと思つ

ちなみにだが三名が欠席となつた 相坂さよは自縛靈だからいけないし（がんばつたらつれてこれが時間がなかつたので無理でした）あとはまあみんな分かるだろうし省略

ちなみに一日目はみんなで一斉に清水寺を見に行つて後は自由だとか

俺は多分予定はないしいけるだろつ

そしてみんなが清水寺を見学中に音羽の滝にでも行つたらなんか上方に酒の入つた樽があつた

「何故あるんだ？」

幸いにも利用者はいなかつたようで一応除去した

しかも狙つてるように縁結びの方に

? ? ? SHIDE

くつ！ ジジはどこだよー？

ああ 空のだつたな 我は……我？ いやいやわいはハ樹の使い
魔のドラゴニア・ナイムレス

ドリガアツて呼んでくれよな！

あと一応竜族の子供だ 一人称はわい 一人称はゴー そいで今はハ
テルとか」・Mとかいうやつらに旧世界

につれてこられたって訳さ

「あー残念だがお前のSHIDEもう終わりだからな

「ハア！？ ちよつとビビつこう」とだよ！ ハテルっちー！」

八樹SIDE

ホテル嵐山

ちなみにどうでもいいがホテル嵐山は実在する

くわしくは各自で調べてくれ

『ひやああ～～つ』

ん?この声は木乃香嬢の声?

まあ女子風呂だし刹那が助けてくれると思うから放つておこう

今日は特にやることがないから刹那と木乃香の過去話でもするか

絵本を読む風に

昔、昔、あるとこ（京都ですよ）に近衛家がありました

その屋敷はとてもでかくていいんだけの別荘レベルの大きさでした

そこに木乃香といつヤツがいました

つたくあの堅物からこんなかわいいのが生まれたんだよ？ と、ツ
ツ「ミたくなるくらいにきれいなお嬢さんでした 日本ではこうい
う人を大和撫子というんだよね」

そしてとある日に神鳴流から刹那といつヤツが来ました

コレがいわゆる運命的な出会いってやつだ ま、俺もいたんだけどね

木乃香嬢にとつて刹那と俺は初の友達だったわけだ

刹那は剣道をやっていて恐い犬とかを追い払ってくれたり危ないと
きは守つてあげたりとかなりいいやつだ

今も守つてゐるんだけどね

そんなんある日 木乃香嬢が川でおぼれてしまい刹那が一生懸命になつて助けようとした

しかし一人とも川でおぼれてしまつて 最終的には俺が助けた

「つたく 大丈夫か？ 一応何故か毛布をもつていたから良かつた
が……」

このとき何故か毛布を持っていたんだ

「守れなくて」めんこひちゃん ウチ もつとつよおなる

まだ子供だしそこまで強くならんでもいいのだがなとそのときは突
っ込んでいたはずだ

「え そんなんええよ・・・一緒に遊んでくれるだけで」

ま、俺はこの一ヶ月後に旅立つたんだけどね

一応その後は 刹那は剣の修行で木乃香嬢と遊ぶ時間が減つてしま
い木乃香は麻帆良に引越し

刹那も中一の時に麻帆良に引越ししてきたが…… ってわけだ

ドラゴニア・ナイムレスの設定

ドラゴニア・ナイムレス

普通の竜族のドラゴン 何故かハ樹になつた

力モの脱獄を手伝つたためかなり仲がいい

ハ樹に言葉をしゃべれる魔法をかけられたためしゃべる」ことができ
る、が少しミスを犯してしまい

関西弁になつた

大きさ 力モの倍の大きいぐらい

技 ブレス中 普通のブレス 範囲はそんなに広くない

かまいたち 普通のかまいたち 言つほど強くない

フレイムウォーター 本人曰く自分の中では最強技 上位技で
あるハイドロバーニングを現在修行
中である

らいげき弱 普通の雷 本人曰く最弱技

ストロングクロ一 爪に力を集中させて攻撃する ストロング

とか書いてるわりに威力はない

『 気迫のオーラ 唯一の防御技 つってもほとんど無意味だったりする

戦いの旋律 何故か自分に使えない

八樹「とまあ 紹介も終わつたし 字数稼ぎに何かしゃべるか どうする?」

豪徳寺「どうすつか?」

山下「修学旅行編に入つたんだし京都について話してみたらどう?」

八樹「お! それいただき! じゃあシネマ村について話すか 正式名称は東映太秦映画村とうえいとうせいいがむらだつたはずだ」

山下「…………」

豪徳寺「………… 続きは?」

八樹「………… もうあきらめて次回予告でもしそう

次回! 八樹がついに魔法を! ? そしてホテル達も動き始める

八樹の他人に対する呼び方（前書き）

今後のために作ってみた

八樹の他人に対する呼び方

1 2 古菲	1 1 釘宮円 古	10 絡繆茶々丸 釘宮	9 春日美空 美空	8 神楽坂明日菜 明日菜	7 柿崎美砂 柿崎（休日限定で美砂）	6 大河内アキラ アキラ	5 和泉亜子 亜子	4 綾瀬夕映 夕映	3 朝倉和美 朝倉	2 明石裕奈 ゆーなまたは裕菜	1 相坂さよ 幽霊または相坂	3 - A 生徒
--------------	------------------------	-----------------------	---------------------	------------------------	------------------------------	------------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------------	--------------------------	----------

13	近衛木乃香	木乃香嬢（本人の前では木乃香）
14	早乙女ハルナ	ハルナ
15	桜咲刹那	刹那
16	佐々木まき絵	まき絵
17	椎名桜子	桜子
18	龍宮真名	龍宮
19	超鈴音	超
20	長瀬楓	楓
21	那波千鶴	那波
22	鳴滝風香	風香
23	鳴滝史伽	史伽（二人合わせて呼ぶときは鳴滝姉妹）
24	葉加瀬聰美	葉加瀬
25	長谷川千雨	長谷川
26	E v a n g e l i n e A . K . M c D o w e l l	
	アナタシア（みんなの前ではエヴァンジェリン）	

27

宮崎のどか

宮崎

28

村上夏美

村上

29

雪広あやか

いいんちょう

30

四葉五月

五月

31

Zazzie Rainyday

ザジ

教師

ネギ・スプリングフィールド ネギ

近衛近右衛門 学園長

タカミチ・T・高畑 高畑先生(昔はタカミチ)

瀬流彦 瀬流彦先生 (休日はさんづけ)

ナギとその一行

ナギ・スプリングフィールド ナギさん（心中では）

近衛 詠春 詠春さん

ガトウ・カグラ・ヴァンデインバーグ

ガトウさん

アルビレオ・イマ アル

ジャック・ラカン ラカンさん

フィリウス・ゼクト ???

番外編 八樹の過去話（紅き翼）編 その1（前書き）

特に意味なく製作してみた あと八樹の年齢を都合上変更した

そしてドラマCDからパクリまくった（といつかドラマCDを元に作った）ので間違いがあるかもしれません ちなみに次回はだいぶ先かな？

番外編 八樹の過去話（紅き翼）編 その一

とつあえずの風呂場

詠春「は～極楽極楽」

ゼクト「なかなかきもちのいい風呂じゃのう」「ひのや

ナギ「つてあつか～！」

ガトウ「あいかわらず風呂が苦手なようだな ナギ」

ナギ「苦手なんじやねえ！ 嫌いなだけだ！」

八樹「ほとんど同じと思しますけど……？」

ナギ「うつせーー！」

ジャック「ヒーリングで詠春 なんでもがねをかけたままなんだ？」

詠春「いやあ、めがねないと見えないんでな」

ジャック「そりこや詠春のめがねをはずしたヒーリング見たことねえな

ナギ「確かに 見た」とねえな

タカミチ「僕も見てみたいですね」

八樹「面白そうだな 僕も見てみたいな」

ジャック「おい詠春！ めがねはずしてみろよ」

詠春「な!? やべー! めがねは絶対にはさん! 」
ゆる俺の一部だ!」

ナギ「つてこわれるとばすをせたくなるよなー」

八樹「うんうん」

「ヤツク」となりやあ

力ギ一突撃一！！」

詠春二三事!! うわ!!

ナギー いしからはずせ！」

訪看・ハナサヘニ?

シャッケ！ よーしゃ！ めかねケット！」

詠春 ひ――!?

八樹

ナギ「…………つて詠春おまえ…………」

詠春「えつ？」

ナギ「やつぱめがね返すわ」

詠春「なんで？」

ナギ「いいからかけろつて」

詠春「なんだよ急に」

ナギ「だ、だつてよお？」

ジャック「正直、めがねはずしたお前の顔は色っぽくて見てられん」

詠春「え？」

そんなこんなで明日への戦いに控えて少年の口に帰ったまゝに仲間と楽しい日々を送った

そしてその夜 各自が材料を持ってきて詠春お得意の鍋を食すことになりましたと

詠春「よーしみんな ちゃんと材料は持つてきたか？」

ナギ「おうー 俺は最高級の肉を持ってきたぜー！」

タカミチ「僕は旧世界日本のおもぢを持つてきましたよ」

ハ樹「俺はみんなに先を越されまくったから鍋用の魚を持つてきましたぞ 生では食えないからな」

アルビレオ「私は新鮮な有機栽培の野菜を持つてきました」の今朝とれたネギなんかは鍋にぴったりですよ」

ナギ「ネギかあ 僕、ネギは食えるけど芯はダメなんだ芯は あつちいしな」

ガトウ「俺は最高の豆腐を持ってきたぜ なんでも旧世界じやヘルシーな食材として親しまれているらしい」

ゼクト「わしはそこいらに生えていたきのこを持つてきた」

ハ樹「いや、そんな怪しいもの持つてこないでくださいよ」

詠春「よし みんな良い食材を持ちよつたな よしー ここからは旧世界隨一の料理人 詠春にお任せあれ！」

アルビレオ「でもまだラカンさんが来てませんが」

ガトウ「そういうクルトのやつも来てないな」

ハ樹「七樹（父）は別のところで遊んでいるけどね」

ナギ「いいじゃねえか そもそも呼んでねーし 筋肉ダルマとすました眼鏡はほつといて先に始めよ ゼー！」

ゼクト「よいのかのう? あとでぐうたら言われても知らんぞ」

ナギ「んつふふつふ」この旧世界の鍋料理はたまんねえんだよなあ」

詠春「おいナギ! 前も言ったが肉を先に入れるなよ」

ナギ「へいへい 分かつてますよ料理人詠春様」

アルビレオ「ハツハツハ 詠春のように鍋につるせ! 人を旧世界では鍋将軍と呼ぶそうですね」

ナギ「あ~でもやつぱもつ我慢できねえ!」

八樹「あつ……」

ゼクト「肉を入れてしもつたの」

修学旅行初日　その2

八樹SIDE

無意味にエントランスにやつてきた

刹那が何かしているようだが

「式神返しの結界？ 何かあつたのか？」

「え……ええ 実はわざといろいろあります」

刹那から事情を聞く とりあえずなんか訳のわからない式神がやつてきていろいろやつやがつたそだ

「あ」

「いたいた桜咲さん」

何故かネギと明日菜が来た

「」・Mはどこに行つたんだよ? ドラゴン

「知るか そんなん つーかわいが知りたいわ」

宿を見つけることができず野宿となつた二人と一匹

「とりあえず 木を器用燃やして一時的な家でも作るか」

「勝手に燃やしてええんか?」

「大丈夫だつて ばれなきや」

「うして俺が木を燃やそつとしたとき

シユシユツ

何かが俺の前を通つた

「何か通らなかつたか?」

「奇遇やな わいもそつ思つたわ」

とりあえず何故か持つているヴィーキング・ソードを構えて今の通つたやつを追つ

ちなみに、ヴィーキング・ソードとは、切断が目的の刀剣である。剣身の模様は蛇に似た表面処理が施されており、神秘的且つ魔力を備えたように見える。鋼がまだない時代であり、金属硬化により強度を持たせものの、戦闘中には刃は曲がる事もあった。

ヴィーキングソードは、北欧を中心に歐州に広まつた。ヴィーキング、バイキングとも言われるが、正しい発音は「ヴィーキング」である。

それはさておきとつと追つことにしよう

八樹SIDE

謎の3・A防衛隊が結成された

そして俺は玄関を見張ることになつたがぶっちゃけると敵に逃げられた

そして今は刹那とネギと明日菜と一緒に追いかけている

「ち・・しつこい人はきらわれますえ」

ちなみにこいつは天ヶ崎千草という人物

「あ マズい 駅へ逃げ込むぞ」

「つていうか何よ あの『テカイサルは！？ 着ぐるみ！？』

「いや、あれは関西呪術協会の呪符使いだったと思つぞ」

ところづかあれでよく動けるなとつべづべと思つ

「あの着ぐるみもただの着ぐるみではなさそりです 気をつけて！」

人がいないな こりゃ あ人払いの呪符があるな

とりあえず刹那が明日菜に人払いの呪符について説明中

そして俺達3・A防衛隊は電車の中に入った

「うわっと間に合つた」

「ネギ先生！ 前の車両に追い詰めますよ！」

「待てーつ！」

「フフ・・・ほな一枚目のお札ぢゃんこあります」

あ、アレはちよいマズい

「お札さんお札さん ウチを逃がせておくれやす

ドパッ！

予想通り水攻めか しかし予想外な速さで車内は水でいっぱいとなつた

「ホホ・・・・車内でおぼれ死なんよーにな ほな」

ぶつけやましい状況 だが剣は旅館に置いてきたし ネギはこんな中で魔法なんて唱えれるわけないし 刹那にがんばつてもらわないとな

そういう間に刹那が斬空閃をはなちドアをぶち破る

はあ このドアは俺が修理するんだもん

「あれ~」

ようやく車内から脱出した俺達 この先どうなるだろ? な

修学旅行初日　その2（後書き）

山下「そろそろゲストでも呼ぶ?」

八樹「そうだな　ぶつちやけやることはないがゲストでも呼ばうか
ちなみに豪徳寺は応援団の練習中だからいいぜ　今日のゲスト
はあの後どうなったか良く分からぬフイリウス・ゼクトさんです
！」

ゼクト「ずいぶんひどい紹介じゃのう」

八樹「別にいいじゃん　それしかないんだし　な？」

山下「結局何するの?」

八樹「めんどくさいし仮契約について話すかちなみに俺の仮契約し
たヤツは以下の人物だ」

ハテル・テル

J・M

???

???

???

ゼクト「ほお　五人と仮契約をしていたのじやな」

山下「そのうち三人はまだ不明だけどね　次はどうする?」

八樹「もうネタがないよ　せっかく大物ゲストを呼んだのに　すま

んな
以上で終わりだ

雑談！！

八樹「最近やることないな」

山下「そうだね どうする?」

八樹「そうだな……豪徳寺もいないし今日は一人かな?」

山下「多分そうだうづうね」

? ? ? 「ちよつと待つたーーー！」

八樹「Who?」

2 (セクンドウム) 「てめえ！ 僕を忘れんじゃねえよー。」

八樹「またまたすごいのがきたな この調子でデュナミスでも呼ぶ
か あーあー デュナミス さつさと来い！ あ？ お前とは敵だ
から無理だと？ 知るか これは敵も味方も関係ないんだよー。」

2 「結局来るのか あいつは」

八樹「色々あるから無理だつてさ」

山下「といつか2つて消えたんじゃないの？」

八樹「いいんだよ ちなみにゲストはいつも変なヤツしか呼ばないからな 多分」

山下「じゃあ 何をする?」

八樹「だいぶ先だが麻帆良祭の話でもしよう これはネタばれの可能性ありだから飛ばしたい人は飛ばしてくださいな」

2 「ほう 大体六ヶ月くらい先のことだな しかもIISの方も更新しないし 遊戯王なんて一週間」ととかいいながらあと更新しないからな」

山下「IISの方は来年から更新再開するって作者は考へてるらしい」

八樹「んじゃまず 武闘会には出るぞ 展開は結構オリジナル的だけど」

2 「あの魔法ばんばん使つていた大会か」

山下「そうそう カイザーナックルで殴られて一発K.O.されたあれだね」

八樹「じゃあ次はっとライブだな」

山下「で、ピン口ケットのライブのことかな?」

八樹「おお 確かバカテスの方の小説でバンド組んでいる設定だったからそれを引き継いでいわゆる顧問になることになった もう言いつことがないから麻帆良祭の話は終了だ」

2 「次は何するんだ?」

八樹「さあ？ 特にないからオリジナル設定の話でもするか
ぶつちやけ豪徳寺以外山下他二名は部活に入っているか不明だから
勝手に部活を作つてみた」

山下「その部活とは？」

八樹「武術研究部つてことにしておいた 顧問は一応俺だ」

2 「具体的には何をするんだ？」

八樹「その名のとおりの部活だ」

山下「じゃあ 次回予告をやるよ 結局魔法を使わなかつた八樹

果たしていつ魔法を使うのか？

次回で修学旅行一日田終了！」

修学旅行初日　その3　（前書き）

じつせ 意味ないけど 感想制限をなくしました

八樹SIDE

天ヶ崎は逃走を図った

「あ 待て！！」

「せ 刹那さん 一体どうこうとですか！？」

「ただのいやがらせじゃなかつたの！？ 何でおおサル（？）に
のか一人を誘拐しようとするのよ！？」

「どうせ関西呪術協会の中に木乃香嬢を東の麻帆良学園へやつたこ
とを快く思わなかつたやつがいるんだろ？ 刹那」「

「ええ おそらくやつらはこのお嬢様の力を利用して関西呪術協
会を牛耳るうとしているのでは・・・」

「え・・・？」

「な・・なんですかそれ！？」

「私も八樹先生も学園長も甘かつたといわざるえません」

確かに完全に油断した まさか「んなことになるとはな

旅行中に襲つてくれるとはね

「しかし元々関西呪術協会は裏の仕事請け負う組織」のよつな強硬手段に出る者がいてもおかしくなかつたのです」

「おつといじにも人払いがあるだ？」

「計画的な犯行と見て間違いないな

「くつ・・・私がつこいながり

刹那が先に行つた

「フフ・・・よーいじまで追つてこれましたな」

「おサルが脱げた！？」

あんなでかいサルがいたら怖いよ

「そやけどそれもこじままでですえ 三枚田のおれぢゃんいかせても
らえますえ」

おおつといれはまづい

「あせるかー」

刹那が止めにかかるつとするが……

「お札さん　お札さん　ウチを逃がしておくれやす　喰らひなはれ
三枚符術　京都大文字焼き」

おーおー　すごい技だねえ

「うあつ

「桜咲わんーー！」

これは流石にこいつらには荷が重いか？

「ホホホ　並みの術者ではその炎は越えられません　ほなさいなら
これくらいなら俺は超えるが　まあ、風の魔法はあんまり覚えて
ないしネギに任せよう

「ラス・テル・マ・スキル・マギステル！　吹け　一陣の風　風花
風塵乱舞！！」

ネギの魔法で炎が消え去った

「な・・何や　　」

「逃がしませんよーー　このかさんは僕の生徒で・・・大事な友
達です！」

おーいー」と囁つねえ

「おい刹那 あつひに神鳴流の剣士がいるぞ」

なんか サツキ見えた

「本当ですか！？」

「ああ マジだ」

「契約執行180秒間！！ ネギの従者 神楽坂明日菜！！」

「桜咲さん行くよー」

みんな行つた

ぶつちやけ俺の出番はなさそまだな

と、俺はこのとき思つていた しかし現実はそう甘くない

「おおつと そうはさせないぜ 八樹」

この声はもしや……

「なんだ カツラーメンも作れない石井和則かよ^{いじいかずのり}」

石井和則 僕と仮契約したやつで 遠当で使いだ ぶつちやけ豪徳寺よりは弱い

俺の仮契約グループ内で最弱の存在で唯一の得意なことといえば

かなりタフなことだな

体力はかなり高いと思つ

「それは言わないでくれ！」

そして無駄に「テンションが高いやつだ

「で？ 何故そっちの味方になつた？」

「」 いひちにも事情があるんだよー 行くぞー！』

「ああ カかつて来い！」

修学旅行初日　その3　（後書き）

豪徳寺「結局終わらなかつたし　魔法も使わなかつたな」

八樹「バカテスの更新で疲れたんだよ　まあ次回は確実に使う

今年最後の雑談

八樹「いよいよ2011年も終わりだな」

豪徳寺「とは言つてもほとんど本編進んでないけどな」

山下「そりだね」

八樹「今日のゲストは前回呼べなかつたデュナミスだ」

デュナミス「ふう 何故」「んなことを……」

八樹「ぶつちやけまたやることがないんだよね」

デュナミス「なら帰つていいか?」

豪徳寺「いやいや だめだぞ」

山下「ひづ」

デュナミス「あー わかつたわかつた」

八樹「じゃあ なんかやるか まずは新キャラの石井和則の紹介からだな」

昔は雑魚だったが　八樹と仮契約をした

山下「早くない！？　終わるの」

八樹「知るか　つーかそろそろ仮が終わる時期だから　とつととパーティーを選ばないといけないんだよな」

豪徳寺「なんか俺より弱いとか言っていたが」

デュナミス「ああ　魔法世界でなんかカードを見たと思えばこいつか」

八樹「なんだ　見たのか？」

デュナミス「それらしいやつをな　ま、無視したが。　八樹の仲間なら消しておけばよかつたな」

八樹「消すなよ」

山下「まあ、落ち着きなって」

豪徳寺「それは置いといて　何をする？」

八樹「せつかくデュナミスをつれてきたし飯を大量に作ったから宴会でもするか」

デュナミス「おい、現実世界の飯は食えんぞ」

八樹「大丈夫大丈夫ちゃんとお前でも食える飯だから　多分ね」

デュナミス「今、たぶんとか言わなかつたか?」

八樹「氣のせいだ　さあて　飯の紹介だ」

クリーミムシチュー　4人前

コロッケ　およそ10個

謎ジユース　1リットル

アシユレ　5人前

ソーセージ　5本

野菜炒め　2人前

珍ラーメン　?人前

魔法世界の肉を使ったハンバーグ　4人前

?/?/?からとつたから揚げ　17個

毒キノコのスープ　3人前

豪徳寺「謎ジユースって何だよ?」

八樹「簡単に言うとミックスジユースだな　旧世界のフルーツをほ

となんど使つたからな はつきりこつてあんまりおいしくない

山下「じゃあ 珍ラーメンは?」

八樹「フカヒレとキャビアとフォアグラのいわゆる世界三大珍味を使用したラーメンだ」

デュナミス「とつあえず? ? ? ? とはなんだ?」

八樹「それは秘密だ なかなかうまかったぞ」

豪徳寺「一番突っ込みたいのは毒キノコスープってなんだよー!」

八樹「ああ、ツキヨタケを大量に使つたスープだ ちゃんと魔法で毒は抜いてある まあ、めちゃくちゃまずいが」

山下「まあ……いつか ジャあいいただきます」

豪徳寺「とりあえずいただきますと」

バクバクムシャムシャ しばらくは食事タイム

八樹「ふつ うまかつたな」

デュナミス「不本意だがかなりうまかった」

八樹「一応ありがとな ジヤあ適当に飯を食つたし 最後の締めでもするか」

豪徳寺「それではみなさん」

山下「来年も」の小説をよみじへー!」

デュナミス「我が出番はまだ先だろ? うなぎな」

ハ樹「以上 今年最後の更新でした サリザななくちょうどいい話だけね」

修学旅行初日 やの4（前書き）

今日は書いたばかりであります。ま、もともと短いけどな

修学旅行初日 その4

八樹SIDE

「爆焰弾！」

「おわっと 危ね！」

石井の攻撃をきつぎりかわす

あれはどこかにぶつかると爆発する危険な技だ

前と比べると技にキレが出てきてる

「結構成長したじゃないか？」

「俺もあの後修行してきたんだよ」

そーか よくがんばったと言つておこいつ

「たあーー！」

何が起こった？

あっちの戦いを見ると明日菜が猿鬼に攻撃した あのアーティファクトは……

「おいおい あれって……」

「ハマノツルギだな 僕も実物は見たのは初めてだとと思つ それより
「うわあ、ほんとうに凄いな」

「うん？ ああそうだな」

あいつの技は爆焰弾と億炎奇と跋扈鬼衆と斥候弾だったはずだ

「アテアツト！」

おおっと 向こうが仮契約カードを使いやがったな

称号は忘れたが能力は確か 気を出せばどんな攻撃も防げるという
反則級のカードのはずだ

3分23秒しか使えないけどね

「ふ、まづいなあ」

とつあえず気合で防御して効果が切れるのを待つしかない

「へふっ」

あれ？

「おい 雇い主がやられたぞ」

刹那の百華なんぢやらかんけりで天ヶ崎がやられた

「あーあ 雇い主がやられちやあ 戦いはできんな あばよー」

石井はどつかに消え去った

「「」」ちは無事に終わったが木乃香嬢は大丈夫だつたか？」

「そりいえばあいつ薬や呪符を使うとかいつていたな このか姉さんは大丈夫か！」

見る限り寝ているだけだから無事だと思つが

「「」」かお嬢様！ お嬢様！ しつかりしてください！」

「ん・・・・」

おつと木乃香嬢が目覚めたようだ

「・・・・・あれせつちゃん・・・・・？」

そういうや石井から何故あつちについているのか聞いていなかつた

「そりいや ハ樹の兄貴 あの石井とかいうやつの知り合いか？」

「一応俺の仲間だ 何故あつち側についたかはわからんが」

こつして修学旅行一日は終了した

修学旅行初日 その4（後書き）

次回から一日目

雑談！？

八樹「といつわけでもた雑談だ」

山下「いやいやいや、最近雑談多いよね？」

八樹「ネタが思いつかんのだ 学園祭や魔法世界編はほぼできているといつのに」

豪徳寺「何故そんなに後のやつができる修学旅行編ができるないんだ？」

八樹「さあね じゃあ今回のゲストは今更過ぎる中村達だ」

中村「よっしゃ！ よっしゃく俺の出番だ！」

八樹「とは言つてもまたまたネタがないので石井和則のキャラ設定といつづ」

石井和則 23歳

遠当で使い とある理由で八樹の仲間になつた

主な技

爆炎弾 当たると爆発する 本人曰く最強技

億炎奇 炎の玉を相手にぶつける

跋扈兎夷 ???

斥候弾 あんまり強くない

中村「見事に適当だな」

豪徳寺「たつちゃんの言つ通りだな」

八樹「それはおいといて実を言つと俺は紅き翼から脱退した（七樹が死んで一ヶ月くらいで）後にとあるチームを作ったんだよな チーム名は黒き霧だつたはずだ今は解散状態だけど」

山下「ちなみにどれくらい活動していた？」

八樹「大体一年ちょっととかな ちなみにメンバー全員と仮契約をしている」

豪徳寺「つーか仮契約って口付けしないといけないんだよな？」

中村「じゃあ 男同士でキスしたつてことかー？」

八樹「さあて どうだろつかな？」

山下「見事にスルーされたけど次にいこつか」

八樹「次はネタばれとして魔法世界編について話すか ネタばれするやつなんて嫌いだ！ お気に入りから消してやる！ とかいう人

はどうぞ消してください」

中村「当然だけど俺たちって留守だよな?」

八樹「まあそなるわな 多分な ちなみに俺はみんな（白き翼）
より早く魔法世界に行くぞ」

豪徳寺「何故だ?」

八樹「指名手配犯になりたくないからだ」

山下「それで早くいくんだね……」

八樹「一応ハテルと」・Mといつしょに行く予定だ あとオリジナルナ
ル魔法として現実から魔法世界に行く魔法を使っていくからな と
まあ話せる内容はこれくらいだな」

豪徳寺「おいおい まだ終わるにははやいぞ?」

八樹「うーん 何をしようか? そうだな…… オリジナルはバカ
テスで散々な目にあつたからオリジナルは多分やらないからな
そうそう重大なことを言い忘れていた」

中村「重大なことは?」

八樹「この話ではデュナミスが原作崩壊してるんだった」

山下「デュナミスってアーウェルンクスの仲間の」

八樹「そう あれだ ついでに作者の一一番好きなキャラだつたりす

る

豪徳寺「えーりくマイナー?なキャラが好きなんだな作者は」

八樹「それはバカテスとかI SとかA n g e l B e a t s でも同じだぞ 作者は基本マイナーキャラが好きになることが多いらしい」

山下「そろそろ終わりじゃない?」

中村「そうだな そろそろ頃合いだろ?」

八樹「ん~ そうだな 早いがこれで終わるか ちなみに次の雑談はメジャーなゲストを呼ぶと思つぞ」

修学旅行 二日目その1

八樹 SIDE

二日目 ネギ先生は5班と一緒にまわることになった

そして俺も何故か付き合わされた 何故かつて?

そう、のどかの告白に付き合えとか言われてさ

それくらいはまあ、構わんのだが

そして場所は東大寺

ちなみに東大寺とは、奈良県奈良市雑司町にある華厳宗大本山の寺である。

金光明四天王護国之寺ともいい、奈良時代（8世紀）に聖武天皇が國力を尽くして建立した寺である。「奈良の大仏」として知られる盧舎那仏を本尊とし、開山（初代別当）は良弁僧正である。

奈良時代には中心堂宇の大仏殿（金堂）のほか、東西2つの七重塔（推定高さ約70メートル以上）を含む大伽藍が整備されたが、中世以降、2度の兵火で多くの建物を焼失した。現存する大仏は、台座（蓮華座）などの一部に当初の部分を残すのみであり、現存する大仏殿は江戸時代の18世紀初頭（元禄時代）の再建で、創建当時の堂に比べ、間口が3分の2に縮小されている。「大仏さん」の寺として、古代から現代に至るまで広い信仰を集め、日本の文化に多大な影響を与えてきた寺院であり、聖武天皇が当時の日本の60余

か国に建立させた国分寺の中心をなす「総国分寺」と位置付けられた。

東大寺は1998年に古都奈良の文化財の一部として、ユネスコより世界遺産に登録されている。（ウイキペディアより抜粋）

「あつ・・　あの　　ネギ先生　　ツ！」

「はい？」

おおつといよいよ来るか？

「先生　　！　わつ　わわ　わたし　大・・す・・すき・・」

かなりたどたどしいな　普通は「こうだらうけど

「大仏が大好きで・・・・」

「へえー　渋い趣味ですね」

あれれ？　というか何故大仏なんだよ？

それはさておき二人はおみくじをすることになった　ちなみに俺は小吉だった

「あのそのつ・・　私・・ネギ先生が　大・・大吉で・・・・！」

「あ　はい　おみくじ引きますか？」

「いえつじやなくて 大吉が大好き・・・いえ大仏・・・」

「うえーん 大凶でした」

そしてまた告白できなかつたのどか しかも大凶なんてものを引く
なよ ネギ先生

「あ 富崎さん ホラ 大仏の鼻と同じ大きさの穴ですよ ぐぐり
抜けられれば頭が良くなつたり願いがかなつたりするそうです」

「えつ！？ 頼いが・・ やります！ ぐぐります！」

その穴なら前に一度ぐぐつたことがある エヘッと確かにこのとき何
か願いがあつたんだよな なんだつけ？

「お お尻がハマっちゃいましたあっ」

「え つ！？」

ええ！？ あれにはまるやつなんか初めて見たぞ

「大丈夫ですか 引つ張りますから」

「くわづーすいません先生」

とこつかなんか疲れたからなんか飲むか 自動販売機はどこかなつと

数十秒後戻つてくるとのどか達がいなかつた

今後のお知らせ？

八樹「とつとと始めるが」

山下「また雑談？」

八樹「いや、今回はちょっと違つた」

豪徳寺「何をするんだ？」

八樹「題名の通りだ」

山下「今後お知らせ？」

八樹「ああ　ぶっちゃけると更新速度が若干落ちることだ　週3回
更新できればいいほうだと思ってくれ　ちなみにこいつは雑談系は
単行本一冊分が終わるごとに一回られるからね　多分」

山下「それだけ？」

八樹「そつ言つだらうとおもつてなんかネタを持つてきただ　まあ
その前にゲスト紹介だ

今回のゲストはなんと！　ラオ・バイロンだ！」

豪徳寺「だれだよ　そいつは？」

八樹「単行本22巻の最初の方に出ていくやつだ」

ラオ「まあそういうふうだった　よろしくな

豪徳寺「というか次はメジャーなキャラを呼ぶんじゃなかつたのか？」

八樹「いやあ 本当は朝倉を呼ぶ予定だつたがキャンセルされた」

山下「へえ 結局何を始めるの？」

八樹「なーにちよつとしたことだ 多分すぐ終わる ちなみにビデオでもいいが作者はチヨロCHIGIといつゲームにはまつている」

ラオ「なんだよそれは？」

豪徳寺「たしか発売日は2002年の12月12日発売のゲームソフトだな」

八樹「まあそれは置いといて やることは必殺技を決めるんだ」

豪徳寺「だれのだよ？」

八樹「お前ら四人組のだ 豪徳寺はもう真・漢魂だし中村はかめはとかあるが大豪院と山下に至つては技すら出してないからな」

ラオ「つーか俺を呼んだ意味はあるのか？」

八樹「悪い ぶっちゃけあんまり意味ない」

ラオ「おい！ なら呼ぶなよ！」

八樹「別にいいじゃねーか 自由拳闘士なんだからさ」

ラオ「暇だったからべつにいいけどよ」

ハ樹「ならひとつ必殺技でも決めるが、まずは山下からだな」

山下「うーん基本寝技が得意なんだけどね」

ハ樹「なら腕挫十字固(うでひしきじゅうじがため)でいいか」

山下「できるけど決めるのは早すぎじゃないかー?」

豪徳寺「ちなみに腕挫十字固とは格闘技で最も有名で頻度多く極る関節技。関節技9本のひとつに数えられる。

相手の肘関節を逆に伸ばして極める、いわゆるアームロックの一種である。柔道、柔術、サンボ、総合格闘技、プロレスリング、合気道（一部道場）などで使用されるほか、世界各国の軍隊などにおいても徒手格闘術の技として訓練されている。（ウイキペディアより）

「

ハ樹「なら次は大豪院だな、実際ほとんどセリフもないし戦いを見た限りでは拳法使いだから

うーん……蝙蝠拳でいいか」

ラオ「適当すぎるな、お前は」

豪徳寺「ちなみに蝙蝠拳は俺もあんまりわからないんだよな

ハ樹「おーこれでも武術研究部の部長だろ?」

豪徳寺「俺でも分からぬことだつてたまにあるんだ」

八樹「ま、俺も分からぬんだけどな 名前へりいしかわからん」

ラオ「よくわからんが終わりか?」

山下「たぶんね」

八樹「そつだな 短いがまあいいか ちなみに次こそはメジヤーな
キヤラを呼ぶ」とにするよ」

豪徳寺「それじゃ もよなー。」

修学旅行一田三 その2 やして!!四三やー

八樹SIDE

一田三の夜十一時

結局のどかはネギ先生に告白をしたらしく 返事はまだもらっていない
いそうだが

そして何故か朝倉に魔法の存在がばれてしまった

朝倉曰くネギが猫を助けようとしたときに魔法を使用 その後ほつきで空を飛んでいったらしい

しかもその後朝倉がどこに行つたかわからない

報道部にばれたら普通にアウトだが朝倉が黙つていると言つてくれ
たらしい

今日は見回りの命令はないから寝よう おやすみ!

朝食の時 何故かのどかが仮契約カードを持っていた 夜になんかネギ先生の唇を奪え的なゲームでのどかがネギの唇を奪い何故か仮契約が成立したといふことだ

「ちよつとどじうするのよネギ！」「一んなにいっぱいカード作っちやつて 一体どじう責任とるつもりなのよ！」

「つーか分身にキスしてもカード出るんだな？」

俺は逆にこいつの方に驚いている カードの出る基準ってなんだろうな？

「えうう…？ 僕ですか…？」

「まあまあ姐さん」

「そーだよアスナ もーかつたつてことでいいじゃん

「朝倉とHロガモはだまつてて…」

「はい…・・・・」

「Hロガモ！？」

いや、アンタ女性の下着を盗んだんでしょう ドラゴンが脱走させたらしげ そういえばあいつら来るのかな？

ハテル SIDE

結局、田前に追つていたやつを見失ってしまい 現在放浪中の一人と一匹は現在森の中にいる

いまだに出れないんだよな

「おい 茂みの奥にだれかいるぞ？」

J・Mがそう言つ ん？ 何々？ 茂みの奥をのぞくと白髪の少年がいた

「で？ どうするんだ？ あの少年に道をあへんか？」

「うーん、だな 少年に聞くのはなんだか変だがまあいいか とりあえずお前は消えておけよ」「うーん、解やー。」

八樹 SIDE

俺たち（ネギと明日菜とちびせつな）は無間方処の呪法で閉じ込められてしまった

そしてつこさつき犬上小太郎とか言ひやつと戦った

そして今も ザザザザザザ わと狗神が来やがった

「気合防御」

とりあえず受け流す

にしても初の防御技は氣合防御かよ 悲しいな……

「で？ どうするんだよ アルベール？ このままじゃやられちゃう？」

「確かに 下手すりゃ大怪我どころじゃすまねえ」

とりあえずこの狗神を何とかしよう 犬上小太郎の方はネギに何とかしてもらつとして

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8312x/>

魔法先生ネギま！ 例のやつがやってきた？

2012年1月10日22時48分発行